

国際教室だより

2026. 1. 27

上宇部小学校 国際教室担当

散在地域、山口県の現状 ~だからこそ！日本語指導担当者の ネットワーク~

県内で「国際教室」、「日本語指導担当者」が見られる学校を、いくつご存じですか？

おそらく、多くは見かけないのではないでしょうか。

「国際教室」のように、



日本語担当が在籍する学校は、県内で数えるほど

しかありません。ですが、日本語指導を必要とする外国ルーツの子どもは、あちこちの学校にいます。このような地域である

山口県は「散在地域」と言われています。

日本語指導担当者が、複数校、掛け持つこともあります。

それでも、**担当者が行き渡らず、**

適切な支援が受けられない子どもがいる のです。

教室で目立たないまま、
困り感を持っている子もいます。
「いっそ走り回って目立ったら、
支援してもらえるかもしれない
のに…」と言う方までいます。

県内の担当者は、数が少ない上に、近隣で「市教研」などの研修機会も持つことができません。

ですが、個別のネットワークを広げ、自主的につながり、このような**現状や課題、指導方法などについて、情報交換**するよう努めています。

大学で、ボランティアで、地域で…と、さまざまな立場で関わる人たちと、オンラインや対面で、定期的に勉強会を持つようにしています。



県内の指導者仲間に支えられて、

日々の研修に向き合っています。



山口県は、散在地域

子どもの日本語指導に関わる担当者の中でも、上宇部小学校で勤務できる私は、大変幸せな環境です。

・**場所** 国際教室という場所

・**人** 職員・保護者・県内の仲間

・**時間** 本年度は常勤として十分な指導時間

「場所」「人」「時間」に、

恵まれているからです。

先生方は、転任先の学校で、支援を受けていない外国ルーツの児童に出会うかもしれません。

自分では声をあげにくい児童の気持ちを汲みとり、支援につなげていただけると有難いです。

もうすぐ卒業～Qさんの成長～



6年生のQさんは、3年生の時、初めて日本の学校にきました。

最初は、日本語が全く分からず

ゼロからのスタートでした。

6年生になって、勉強や行事にますます全力で臨んでいるQさんですが、当初は、日々がんばりすぎて疲弊し、登校しぶりが見られたこともありました。

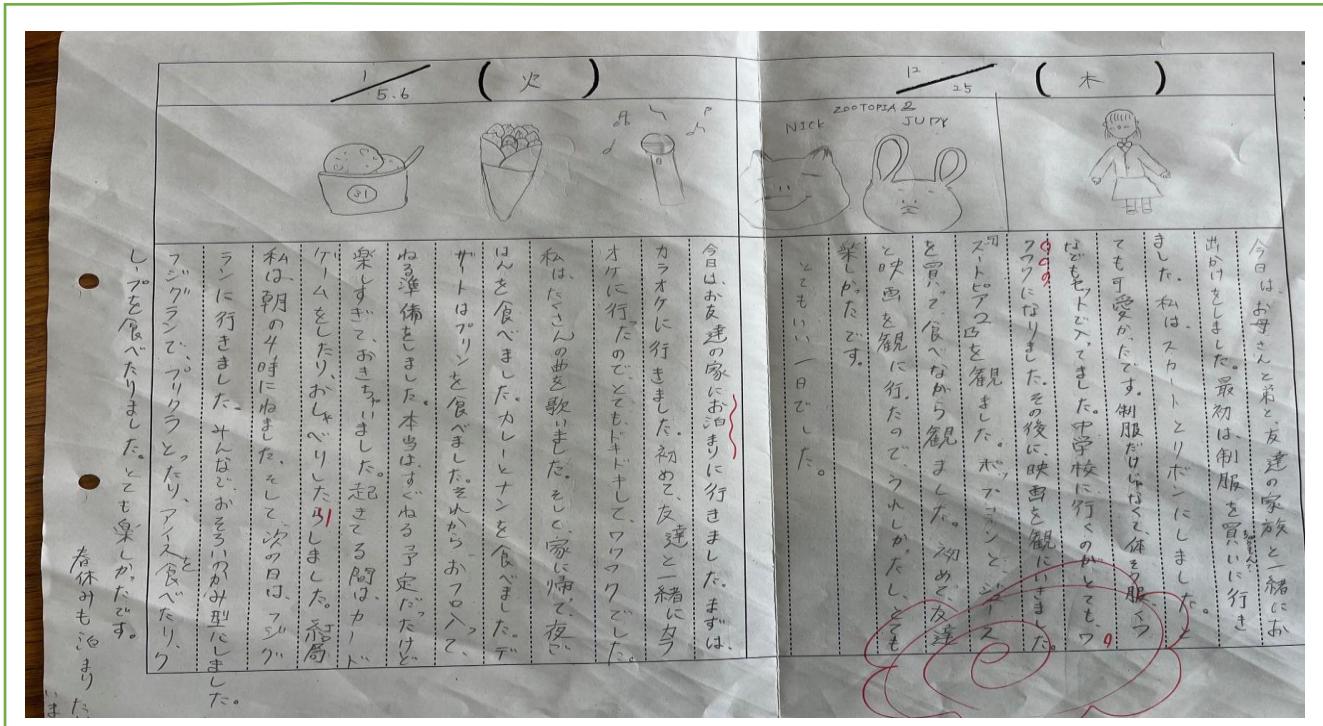
今のはつらつとした姿からは、想像がつかないと思います。

遠い日本へやってきた子どもたちは、

大変な努力をして、今、笑って過ごしている

のだということを、十分わかってあげたいと思っています。

↓最近のQさんの絵日記



日本のお正月の遊びを体験！

日本のお正月について知り、福笑いとかるたをしてみました。

福笑いでは、

「顔のパーツ」「方向」など、既習の語彙をたくさん使って楽しむことができました。

これは「目」です。

上、上、もっと左！



かるたでは、「読み札を読む」のを、何枚かずつ順番に受け持ちました。読むのが得意な子も苦手な子もいますが、相手の気持ちを考え、楽しむ姿が見られました。